

# 序

中心静脈カテーテルは、現代医療のさまざまな分野で使用されています。化学療法ポートや心臓ペースメーカーのリードの挿入、血液浄化のためのブラッド・アクセス (venous access) 等です。しかし、中心静脈カテーテルを留置する際に、気胸や動脈誤穿刺といった機械的合併症が起こることがあります。さらに、これらの合併症が気道閉塞や出血性ショックなどを併発すると、致命的な状況を引き起こしてしまいます<sup>1)</sup>。

患者を助けようと思って行った行為が、かえって患者を死に至らしめている…。こうして医療安全の観点から、安易に中心静脈穿刺を行うべきではなく、可能なら他の方法を選択すべきと考えられるようになりました<sup>2)</sup>。その答えの1つがPICC (peripherally inserted central venous catheters, 末梢挿入型中心静脈カテーテル) です<sup>3)</sup>。今から3年前、ある麻酔の雑誌にPICCの特集を組みました。そのとき、きわめて大きな反響があり、驚いた記憶があります。今回は要点だけでなく実際の臨床に必要なノウハウを中心にまとめました。本書を読んでこの中心静脈カテーテルにどのような利点と特徴があるか知り、上手に使いこなすことで医療の安全を確保し、患者の信頼に答えることができるようになってください。

2017年10月

杏林大学医学部麻酔科学教室  
徳嶺讓芳

## <文献>

- 1) 徳嶺讓芳:なぜ起こる,どう防ぐ中心静脈穿刺の医療事故, 医療安全, 9:108-113,2009
- 2) 徳嶺讓芳 ,他:行動目標 3b危険手技の安全な実施—中心静脈カテーテル穿刺挿入手技に関する安全指針の遵守.「医療安全実践ハンドブック」(医療安全全国共同行動支援部会/編), pp81-100, 一般社団法人医療安全全国共同行動, 2015
- 3) 徳嶺讓芳:PICC は有用か? 麻酔科医にPICCを勧める理由(徹底分析シリーズ 最も古く最も新しい中心静脈ラインPICC). LiSA, 21:96-98, 2014